

## 時代の変化と住まいの変化

東京都練馬区立開進第一中学校

二年 柴田 菜帆

新型コロナウイルスの影響で家の中で過ごす時間がぐっと増え、それと同時に我が家では「模様替え」が行われることになった。私ははじめ、模様替えに反対だった。暮らし慣れた空間を変えるのには勇気がいるし、がらりと周りの風景が変わってしまうと落ち着かなくなってしまうような気がしたからだ。けれど、母に「模様替えはあなたの成長に合わせて今まで何度もやってきたのよ。」と言われ私も協力し、模様替えを行うことになった。

まず、来年に受験があるということもふまえ、勉強机と棚などを置いた勉強用のスペースをつくった。そして今の世の中に合わせて父のテレワーク用のスペースもつくられた。他にも以前と比べ観葉植物などを多く置くようになった。これは「室内に緑があると落ち着くでしょう。」と言って母が置いたものだ。こうして模様替えが終わる頃には前とはまた少し違った雰囲気の家となっていた。そして模様替えをしたことで前と比べ暮らしやすくなったように感じ、なんだがすがすがしい気持ちになった。また、これまでも快適な住まいを求め、時代や暮らしに合わせて住まいは変化し続けてきたのだと感ずることができた。

その一方で、年年祖父母の家へ行くときや障子、こたつといった昔ながらの空間に落ち着くことができる。これは、私が小さい頃から変わらない空間だからではないだろうか。和室には昔からの工夫がたくさんつまっている。畳には、寝ころがることもできるし、震動や足音をやわらげてくれる効果もある。また、障子は風通しがよく、湿気が多い時期には涼しく過ごすことができる。

快適さを取り入れ時代や暮らしの変化に合わせて変えていく空間も良いが、昔から変わらず工夫のつまった空間も捨て難い。家は多くの時間も過ごす場所だからこそ、その両方をうまく取り入れた暮らしをつくっていったら良いのではないだろうか。